

科目名	家庭基礎	学科・学年・学級	普通科・1学年・全クラス
		単位数	2単位（週2時間）
使用教科書・副教材等		[教科書]	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）
		[副教材]	生活ハンドブック（第一学習社）

### 1 学習目標

- 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技術を身に付けます。
- 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養います。
- 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養います。

### 2 学習方法

- 講義、ワークシート、調理実習、視聴覚機器の利用、疑似体験、保育体験など、様々な学習形態を通して、家庭生活を営むために必要な知識や技術を実践的、体験的に学習します
- 実験・実習を通して分かったこと、気づいたことを自分の言葉でまとめ、発表をしたり、他者の発表を聞いたりすることで、考えを深めていきます。
- ワークシートやプリントの保管・管理は重要です。きちんとまとめておきましょう。
- 日頃からマスコミ報道に触れて、家族や家庭を取り巻く社会情勢の変化に気づき、常に問題意識を持つようにしましょう。
- 授業で身に付けた知識や技術を日常生活で生かし、日々の生活の改善・充実に努めましょう。

### 3 学習評価

#### (1) 評価の観点・趣旨・方法

評価 観点	趣 旨	評 価 の 方 法
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それに係る技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況の観察</li> <li>・ワークシート</li> <li>・実験、実習</li> <li>・作品</li> <li>・定期考査</li> </ul>
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から課題の設定、解決策の構想、実践の評価・改善を行い考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の発表等の観察</li> <li>・ビデオ鑑賞等の感想</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ホームプロジェクト</li> <li>・定期考査</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況の観察</li> <li>・ノートや課題の提出状況</li> <li>・作品</li> <li>・ホームプロジェクト</li> </ul>

#### (2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査、実技テスト、ノートや課題等の提出状況、作品、授業態度・出席状況等から、各単元の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を総括して行います。学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

#### 4 学習のポイント

- 「豊か」と言われている現代社会では、生き方やライフスタイルなどの選択肢が多く、自分らしい生き方を創っていくことができますが、その分、自分自身で判断をし行動することが求められます。衣・食・住などに関する基礎的な知識や技術を身に付け、家族、地域とのつながりに基づいた、本当の意味での「豊か」な人生について考えていきましょう。
- 日頃から、社会の状況や自分の生活に関心を持ち、課題を見つけ、改善や充実のための方法を考える習慣を身に付けましょう。
- 授業で学んだこと、身に付けたことを生活の中で実践し、発展させていきましょう。

#### 5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	「家庭基礎」を学ぶに当たって 第1章 生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年間の学習内容を確認し、家庭基礎を学習する目的を理解する。</li> <li>・ 生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。</li> <li>・ 自立した生活を営むために、今までの自分を客観的に振り返る。</li> <li>・ 自分のライフスタイルを考え、様々な生き方について理解する。</li> <li>・ 家族・家庭と私たちの生活の結びつきを理解する。</li> <li>・ 仕事と家庭の両立や地域の結びつきについて理解する。</li> <li>・ 着用目的に応じて、健康・快適・安全な被服の選択と着装が実践できるように、被服の役割や被服の材料、性能、加工について理解する。</li> <li>・ 衣生活について自ら管理する知識と技術を習得する。</li> <li>・ 次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。</li> <li>・ 小物製作を通して、基礎的な縫製技術を習得する。</li> <li>・ 生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。</li> <li>・ 発表を通して、相互評価を行う。</li> <li>・ 乳幼児の心身の発達と生活、親や保育者の役割と保育について理解し、社会の一員として次世代を育む責任を持つ。</li> <li>・ 現代の子育て環境の変化や課題について理解する。</li> <li>・ 高齢者の特徴と生活及び社会の仕組みや課題について理解する。</li> <li>・ 高齢者の自立生活を支えるために、私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。</li> <li>・ 誰もが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たしつながっていくか、考えて実践する。</li> <li>・ 消費者の現状と課題や、契約の重要性、消費者の権利と責任について理解し、消費者として意思決定に基づいて行動できるようにする。</li> <li>・ 持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。</li> <li>・ 各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら主体的に生活を設計できるようにする。</li> <li>・ 自分の食生活をチェックし、自立に向けた課題について考える。</li> <li>・ 栄養や食品の調理性に関する科学的な理解を深め、食品の選び方、保存や加工方法など食の安全についての知識を身に付ける。</li> <li>・ 生涯を通して健康で安全な食生活を営むことができるようにする。</li> <li>・ 調理実習1（スピード料理和風）、調理実習2（スピード料理洋風）、調理実習3（スピード料理中華）</li> <li>・ 家族の生活とライフステージに応じた住居の条件について考える。</li> <li>・ 快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。</li> <li>・ 環境に配慮した住生活について理解する。</li> </ul>
5	第2章 人生をつくる	
6	第7章 衣生活をつくる	
7	小物製作 <期末考査>	
8	ホームプロジェクト	
9	第3章 子どもと共に育つ	
10	第4章 超高齢社会を共に生きる	
11	第5章 共に生き、共に支える 第9章 経済生活を営む 第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する	
12	<期末考査> 第6章 食生活をつくる	
1	調理実習	
2	第8章 住生活をつくる	
3	<学年末考査>	